

枚方市立図書館第3次グランドビジョン 成果と課題

運営基本方針	成果	今後の課題
<p>【運営方針①】基礎的な図書館サービスを充実します</p>	<p>「資料・情報収集機能、提供機能の充実」については、平成 30 年 3 月に改訂した枚方市立図書館蔵書計画に基づき、市民ニーズを反映した蔵書と知の源泉となる学問体系を意識した知識・教養を高める蔵書のバランスを重視した蔵書構成を目指して、職員が持つ専門的な知識・経験を生かして選書会議を開催し、図書やオーディオ・ビジュアル資料や商用オンラインデータベースなど、幅広い資料の収集・提供を行った。</p> <p>また、定期的に図書の入れ替え等を行い、魅力ある書架の維持・向上に努めた。</p> <p>また、障害者サービスにおいては、大活字図書収集、録音・点字図書・字幕付き映像資料の製作・収集など資料の充実を図り、その提供を行うとともに、対面読書や録音図書の製作に従事する音訳協力者の育成を行い、高齢者・障害者に対するサービス環境の整備に努めた。さらに、手話で楽しむお話し会やバリアフリー行事、バリアフリー映画上映会や宅配サービスを行い、障害者を含めた読書環境の充実を図った。</p> <p>「求めに応じたレファレンスサービス（調べ物案内）の充実」については、カウンターや館内でのポスター掲示、デジタルサイネージ等での案内、中央図書館ではバックヤードツアーの中で、レファレンスサービスの紹介や図書館での本の探し方などの紹介等を通じて周知に努めながら、市民の求めに応じた資料・情報の検索・提供を行うとともに、読書相談など市民の課題解決に向けた支援を行った。さらに、窓口で問い合わせの多い内容について、パスファインダー（調べ方案内）を作成し、窓口やホームページで情報提供を行うなど、レファレンス事例の公開に努めた。</p> <p>「図書館という空間の魅力向上」については、平成 30 年 3 月に中央図書館に自学・自習コーナーをさだ図書館、牧野図書館ではラーニングルームを試行設置し、4 月 1 日から本格実施。その後、御殿山図書館、津田図書館でも自学自習タイムを実施。新たに 103 席の座席数を確保し、滞在しやすい環境整備、学習環境整備を行い、滞在型図書館に向けた取り組みを行った。</p>	<p>新規 非来館・非接触型サービスとしての電子書籍の導入や館内 Wi-Fi 環境の整備など ICT を活用したサービスの実施</p> <p>新規 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）施行に伴うサービスへの取り組み</p>

<p>【運営方針②】家庭生活及び職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能を強化します</p>	<p>「課題解決支援」については、「図書館を使いこなす講座」を開催し、辞書や事典、郷土・行政資料などのレファレンスツールの紹介やその調べ方など市民の情報活用能力の育成を図った。「枚方の文化財について調べる」「禁野火薬庫について調べる」「認知症について調べる」「医療・健康情報を調べる」等、窓口でよく問い合わせのあるテーマについてのパスファインダー（調べ方案内）を作成、本庁他課が実施する各種講座に合わせてブックリストを作成・配布（例：認知症、発達障害、動物虐待など）や学校でのDV予防教育用にブックリストを作成・配布など課題解決支援の取り組みを行なった。</p> <p>ビブリオバトルの実施や成人向け講座（大人の学校）を開催し、講座のテーマに関連する図書リストの作成・配布、関連図書の展示を行うなど、日常的な課題を解決する際の図書館の活用方法などをPRし、利用促進を図った。</p> <p>「地域社会の結びつき」については、毎年、読み聞かせボランティア向けの研修会・交流会の開催や、新たにボランティア活動を希望する市民向けに絵本の読み聞かせボランティア養成講座や紙芝居ボランティア養成講座などを開催した。講座終了後、受講者が読み聞かせボランティアグループを結成するなど地域活動を始めたい人の出会いの場の提供と活動の支援を行った。</p>	<p>継続 レファレンスサービスの蓄積</p> <p>新規 eレファレンスサービスなどへの展開</p> <p>継続 地域活動への支援</p>
<p>【運営方針③】教育的役割を重視した取り組みを推進します</p>	<p>「読書習慣の育成」については、本市では、子ども読書活動を市立図書館の特色の一つと位置付け、第3次枚方市子ども読書活動推進計画の策定、同計画に基づく子ども向けのさまざまな事業の実施や小中学生の読書環境の整備、調べ学習コンクールやビブリオバトルなどの学校との連携事業の実施、さらに、市内全中学校区（19校区）に、公立図書館で司書経験のある学校司書19人を配置し、学校図書館の環境整備や学校教育での読書、調べ学習の支援を行った。</p> <p>また、市立図書館から学校に団体貸出図書を搬送する学校巡回便の運行の開始、子ども読書活動を支援する読み聞かせボランティアの育成など、子ども読書活動の推進に係る事業や環境整備を積極的に行った。平成28年4月には子どもに本を届ける基金を設立、毎年、基金を活用し、小学校45校に本を購入し学校図書館蔵書として届けるなど、学齢期の読書習慣を育てるための学校図書館支援を行った。</p>	<p>学校図書館の活用に向けたさらなる支援と学校司書の役割についての検討</p> <p>新規 児童生徒1人1台配置するタブレットを活用した学校図書館支援（市立図書館の電子書籍も活用）</p> <p>継続 乳幼児期からの読書習慣を育てるために保護者対象の講座の開催を検討</p>

<p>【運営方針④】魅力的かつ効果的・効率的な運営体制を構築します</p>	<p>「各図書館施設の役割分担と連携」については、中央図書館を司令塔とした、中央図書館・分館・分室・自動車文庫の最適な役割を明確化した。さらに、効果的・効率的な運営体制の構築として、生涯学習施設と図書館の複合施設への指定管理者制度を導入し、生涯学習施設と図書館の一体的な運営を行った。この制度導入により、対前年度比で、開館時間は約1.5倍、来館者数は8%（約4万人）の増加となった。また、生み出した資源（人材等）を市立中学区の学校司書として配置するなどサービス向上を図った。</p> <p>「市立図書館コンピュータシステムの更新と情報関連機器のさらなる導入の検討」では、平成28年に市立図書館コンピュータシステムの更新に合わせて、市内64小中学校すべての学校図書館蔵書のデータベース化と市立図書館コンピュータシステムとのオンライン化を行った。さらに中央図書館では、地域資料を約450タイトル電子化し、職員のレファレンスツールとして活用した。</p> <p>「各図書館施設の老朽化対策」については、引き続き市有建築物保全計画に基づく施設改修に取り組むとともに、老朽化が進行し、バリアフリー化が遅れていた香里ヶ丘図書館の建替えを行った。</p> <p>「職員の知識・技術・能力の育成・継承」については、図書館における核となる専門的スタッフの計画的な育成を図るため、ジョブローテーションによる人材育成を行うとともに、図書館業務に係る外部の研修会に職員を派遣し、その研修内容を職員間で共有化に努めるとともに、市立図書館内での実務研修等を実施することで、職員の資質の向上を図った。</p> <p>「図書館サービスの周知」では、市民の図書館利用を増やすために、図書館だより・新着図書案内の発行、ホームページやツイッター、FMひらかた、駅構内の広告などを行った。</p>	<p>継続 分室の活用 今後の分室のあり方を検討</p> <p>新規 魅力的な「枚方市駅前図書館機能」の検討</p> <p>継続 中央図書館正職員の高齢化が懸念される。 司書資格所有者を含め、職員の若返りが急務 司書等専門的スタッフの計画的な配置が課題</p>
---------------------------------------	--	---

(注1) ビブリオバトル・・・参加者が本を紹介し合い、最も読みたいと思うチャンプ本を投票で決めるイベント
(注2) パスファインダー・・・特定のテーマに係る各種情報ツールや情報の探索方法を紹介するもの